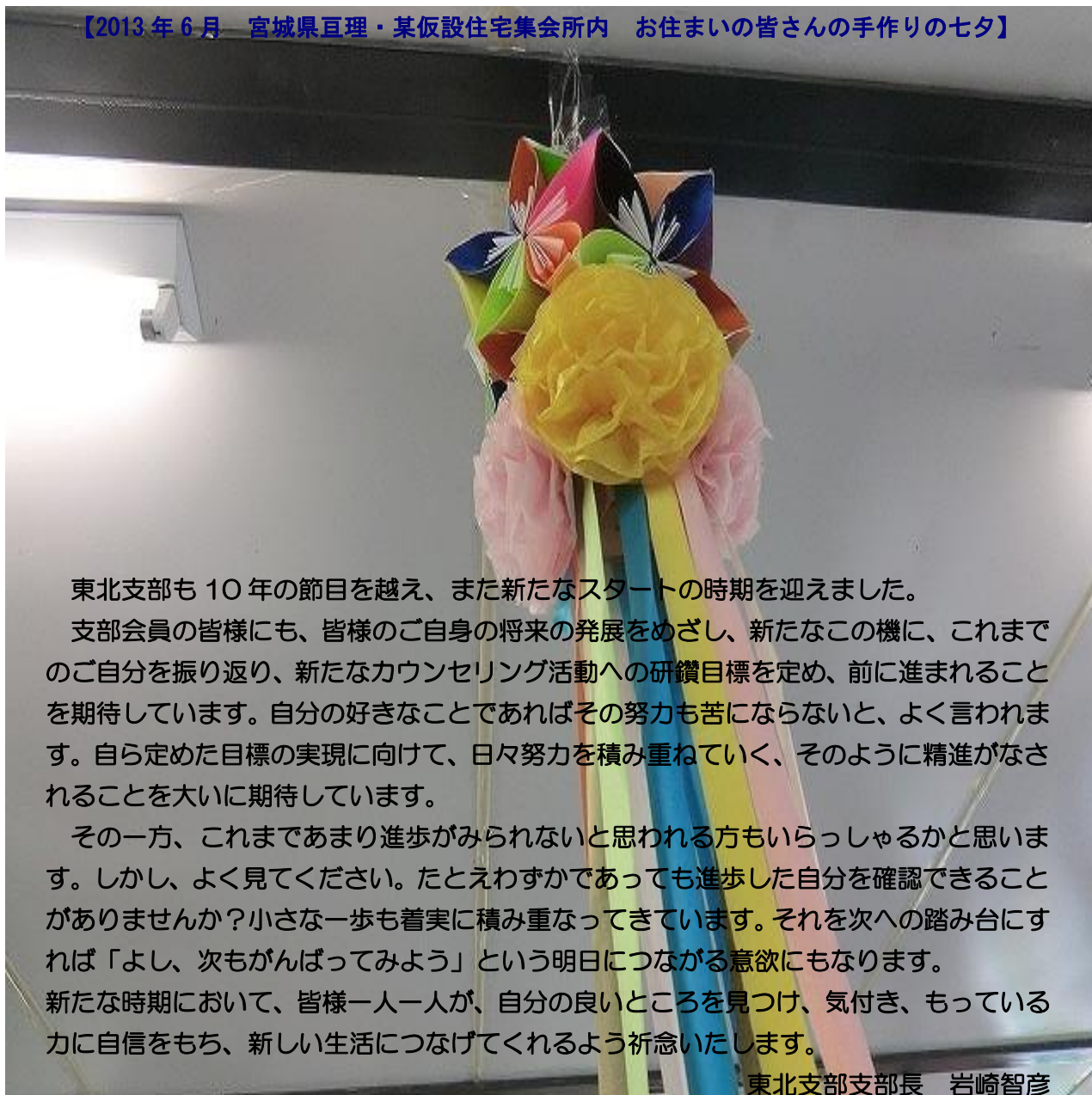


海つばめ

【2013年6月 宮城県亶理・某仮設住宅集会所内 お住まいの皆さんの手作りの七夕】



東北支部も10年の節目を越え、また新たなスタートの時期を迎えました。

支部会員の皆様にも、皆様のご自身の将来の発展をめざし、新たなこの機に、これまでのご自分を振り返り、新たなカウンセリング活動への研鑽目標を定め、前に進まれることを期待しています。自分の好きなことであればその努力も苦にならないと、よく言われます。自ら定めた目標の実現に向けて、日々努力を積み重ねていく、そのように精進がなされることを大いに期待しています。

その一方、これまであまり進歩がみられないと思われる方もいらっしゃるかと思います。しかし、よく見てください。たとえわずかであっても進歩した自分を確認できることがありますか？小さな一歩も着実に積み重なってきています。それを次への踏み台にすれば「よし、次もがんばってみよう」という明日につながる意欲にもなります。

新たな時期において、皆様一人一人が、自分の良いところを見つけ、気づき、もっている力に自信をもち、新しい生活につなげてくれるよう祈念いたします。

東北支部支部長 岩崎智彦

目 次

- ☞ 表紙・支部長挨拶・・・・・・・・・・1
- ☞ 東北支部総会開催報告
及び役員挨拶・・・・・・・・・・2～6
- ☞ プライマリー研修に参加して・・・7
- ☞ ボランティア報告・編集後記・・・8

東北支部総会開催報告

去る6月22日(土)午後1時30分より仙台市青葉区のハーネル仙台「松島」を会場に『第11回(平成25年度)東北支部 通常支部総会』が開催されました。平成25年5月31日現在の会員総数1,112名、委任者を含む合計出席者数902名で総会は成立致しました。

総会の議事に先立ち、来賓の協会本部専務

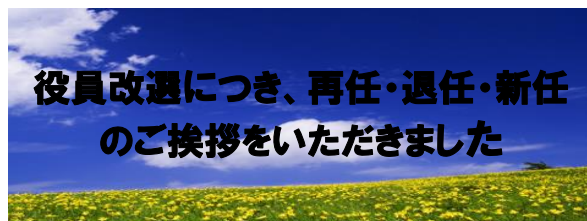


理事でおられる、東大策氏より、本年度から産業カウンセラー養成講座、シニア講座の内容が、より一層のスキルアップ化をはかるために一新された件や、一般社団法人への移行に伴い、支部と本部の連動が今まで以上に必須となっている現状を実感されているというお話がありました。

岩崎智彦支部長を議長にスタートしまし



た通常総会におきましては、出席会員の皆様からも活発に意見や質問があげられる光景もあり、提出議案におきまして満場一致で全議案承認され、無事閉会致しました。



再任 総務部長 加藤 有史

表向き?週3日勤務の大部分が、研修や面接の依頼への対応や入札業務。それらは1本の電話、メール、ファックスまたはホームページ上の公告に始まり、細心の注意が必要な様々な調整を経て実施となります。そして終了後も報告書類の処理や依頼元様との事後業務。最後に担当された方々への謝金計算。これらが年間を通して毎日数十件重複して動いています。

これって総務部長の仕事?と思われるかも知れません。予算執行管理や各部業務の起案・調整・実施、さらには会員の皆様との様々な対応。これらは支部長代理の神さんや事務局長の太幸さんが中心に行ってくださいました。

殆どの役員がフルタイムの仕事に従事しているなか、会社組織のように業務が回らないのは仕方ないことかも知れません。しかし、業務の大半を一部役員の負担になっているというのでは、組織も長続きしません。

会員の皆様が「支部は何もしてくれない」とか「支部がしていることが見えない」という思いを、「何が私にできるのかな」という思いに多くの会員の皆様にしてもらえようという運営をと考えています。

再任 事業推進部長 佐藤 敏彦

2期目の再任となりました事業推進部長の佐藤です。2年数ヶ月前、東日本大震災の少し前に事業推進部長に推薦されました。「事業推進部って何をやるの?」と何もわからないまま承諾してしまいました。その後大震災があり、秋田への転勤が決まり、この状態で事業推進部長が務まるのか、との葛藤の

まま2年間過ぎてしまいました。その間、神支部長補佐、加藤総務部長、藤岡副部長に支えられ業務のほとんどをこのお三方におんぶに抱っこで経過しました。昨年はインストラクター初級研修、支部派遣講師等研修など5回の研修を開催することができました。この2年間、そんな中で少しずつではありますが、業務が見え、覚えて来たことを今度は積極的に実践していきたいと思えます。とりわけ、支部派遣講師の育成には力を注いでいきたいと思っています。今後の研修計画に注目していただきどんどん受講していただければと思っています。ご参加お待ちしております。現在、支部では東北6県の多くの事業者と派遣講師契約、派遣カウンセラー契約をしており今後多くの講師、カウンセラーが必要となります。そのためにも研修等を受講し、しっかりとスキル身をつけ、協会支部派遣に恥じない講師、カウンセラーとして活躍していただきたいと思っています。そしてその一助になるよう頑張っていく所存であります。

今後の会員皆様のご協力、ご支援よろしくお願いたします。

 退任  相談事業部部長 小山 清治

2年前、相談事業部長を長年務められた、故大竹 明子さんから引き継ぎ、会員研修部長を私から大竹さんに引き継ぐことになりました。

引き継ぎの打合せに、なかなか日程の調整が付かず、苦心したことを思い出します。

大竹さんは自動車の運転がお上手でした。青森県他交通の不便な地域での派遣講師やカウンセリングを積極的に引き受けておられました。当然、宿泊出張や夜遅くの帰仙もたびたびで、フル勤務の私との日程調整がなかなか上手くいかず、夫々の新任部長職をスタートした後も、たびたび電話・メール・支部での打合せを行っていました。

特に大震災後の遠方の被災地でのカウンセリングは、スキルの非常に高いベテランカウンセラーにとっても、大きな負担になったのではないのでしょうか。

何度か、派遣講師やカウンセリングの仕事で一緒することがあり、事前打ち合わせを行ったことがあります。私は、40分から長くても1時間位のつもりで行くのですが、大竹さんのペースで2時間～3時間かかることが多く、仕事への取組み姿勢、クライアントへの熱い思いに、圧倒されたことがしばしばありました。

平成24年5月、協会の全国研究大会で上京中に訃報をお聞きしました。その時の何とも言えぬ、心友を亡くした悲しみが蘇ってきます。

長年、支部活動・相談事業部長でご貢献された大竹明子さんのご冥福を祈る文章で、退任のご挨拶に代えさせていただきます。

 新任  相談事業部 田中館 容子

大震災から2年4カ月をへても、まだまだ多方面で震災から立ち直れない方々も多く、メンタル的な問題も複雑化・深刻化しているように思われます。

そのようなニーズに応えることのできる東北支部の産業カウンセラーを育てるため、さらに継続的・安定的に確保できるよう事業推進部・会員研修部・地区活動部と一層の連携をはかり相談事業部としての活動を続けていきたいと思えます。そのためにもなるべく早い時期に登録カウンセラー研修をおこない活動していきます。

また、自殺予防週間における『自殺予防ダイヤル相談』の相談の実施もしっかりと体制を作り臨んでいきます。年々電話での相談内容も多様化し、相談者の年齢層も様々です。会員のみなさまのそれぞれの特性をいかしのご協力・参加よろしくお願いたします。

 **退任 会員研修部部长 小山 清治**

この1年間をふり返ってみますと、急逝された部長の大竹 明子さんの後任として、3期務めた前任の私が急遽、相談事業部長と兼務という形でお引き受けすることになりました。

思い起こせば、3期とこの1年の会員研修部長をお務めできたのは、3人の副部長とスタッフに恵まれたお蔭だと感謝しております。

今は東京に移住された大川 早苗副部長、大川さんの後任の伊藤 文副部長、大竹部長の急逝という非常時下での佐藤 博子副部長には本当によく支えていただきました。また、スタッフの皆様方には、夫々の持ち味を充分発揮いただきご貢献いただきました。事務局の方々の温かいご支援にも助けられた7年間でした。

シニアコース講座も大学教授・専門医の直接講義から、主にDVD方式へと変わりました。また、各県地区活動部の活躍、新たに宮城県地区活動部の設立も予定され、今後の会員研修部のあり様も大いに論を俟たないところかと存じます。退任後も支部発展に微力ながらもお役にたてればと思っています。

ありがとうございました。

 **新任 会員研修部 佐藤 博子**

昨年当時の会員研修部長であった大竹明子さんの突然の急逝により、昨年度総会後から副部長を拝命して1年間、業務に携わらせていただきました。ただただ、開催が予定されていたDVD研修やシニア講座を滞りなく運営することを第一に考えてやってきました。DVD研修は、仙台と盛岡と2か所で開催しており、盛岡は副部長であった菊池規子さんに担当していただきました。時には1名の参加者であっても、担当していただいたことに大変感謝しております。また、現在は、

5年に一度見直しによる新キャリア・コンサルタント講座の特別講座(A)、CC講座(B)、新基準対応CC講座が終了したところで一息ついているところでございます。

会員研修部の目的は会員の自己研鑽のお手伝いができるよう、そのニーズに合わせた研修を提供できることが本来と考えます。ニーズを吸い上げて、企画し予算を立て、支部運営幹部会に諮り、日程を調整し講師の手配、そして募集となるまでの工程があり、それでも実現するまでに至らなかったということもあって、大変もどかしい思いをしておりました。実際、ある講師の方から、日程より講師依頼が先であり講師のスケジュールに合わせて研修日を決定した方が良いのではないかということ伺いました。このように、不慣れな担当者であり、申し訳なく思っております。

会員研修部の研修はシニアコース講座研修だけでは決してございませんが、協会ではより専門性と実践力のあるシニア産業カウンセラーの輩出を目的として2014年度から、新シニア講座が始まります。現シニア講座は2016年度で終了し、それに伴い現行のシニア産業カウンセラー試験は2018年度で終了することになります。2016年度までは、シニアコース講座を現シニア講座と新シニア講座を重ねて開催実施する予定であります。今年度のDVD研修は、産業組織に関わる関係法令や人事労務管理等に関わる講座中心に開催予定しており、研修費がライブ会場よりはリーズナブルに受けることができますので、会員の皆様にはふるって参加していただきたいと思っております。

また、シニアコース講座研修だけではなく、「こんな研修をしたい」という要望がございましたら、東北支部会員研修部の方へご一報をお待ちしております。どうぞよろしく願います。

 退任 養成講座部部長 田中館 容子

私が養成講座部にかかわらせていただきましたこの2年間にふりかえりますと、東北大震災後の特別養成講座開講、そして平成24年度は東北6県全県にての養成講座を開催でき、平成24年10月からは仙台にての通信講座の開講、平成25年4月には新養成講座を開講できました。私にとっては、とても長くもあり、あっというまの2年間でもありました。養成講座においては、指導者のレベルアップ・指導の充実も図れつつあります。これからの養成講座をになっていく方々もそれぞれ自己研鑽をかさねており本当に頼もしく思います。

今まで私は東北支部事務局のみなさま方、養成講座指導者・運営に携わってくださった方々、支部会員の皆様のご支援・ご協力をたくさんいただき、ここまで来れたように思います。本当に感謝申し上げます。今後の養成講座にもさらなるみなさまのお力添えをよろしく願いいたします。

 新任 養成講座部部長 末富 美貴

この度、養成講座部長に任命されました末富と申します。

私が、養成講座を受講したのは平成8年でした。東北では1教室しかなく、テキストもない時代です。面接実習では「はい」「ええ」とうまく言えた時に、こんなに人生の中で返事をして褒められるのは幼い頃に祖父母から何をしても嬉しがられて以来だと思っておりました。この頃はロジャーズの「カウンセラーのもつ態度」を実習を通して指導者からゆっくりとした時間の中で学べたように思えます。

この15年ですっかり養成講座は変化いたしました。いまや各県に1教室、通信講座が昨年より開講しております。今年度より「新養成講座」がスタートし、テキストも講

座内容もより重厚になりました。より専門性が求められ、社会貢献できる産業カウンセラーの育成を養成講座で求められるようになりました。

その分、指導者の方々はかなりの時間の研修を受け、日々の努力と運営へのご協力を頂き養成講座を支えて頂いております。

養成講座は、協会員になられる方々の扉の役目も担っております。その意味でも、より充実した内容とサービスの提供が必要になっております。

全国的にも養成講座受講者が減少している中、養成講座を受講し産業カウンセラーの育成が社会に貢献できることを私たちは知っています。東日本大震災から3年目を迎えているこの東北では、産業カウンセラーの活躍がまだまだ望まれています。

そのためにも、養成講座へのお誘いをしていただきたく思います。

任期の間に、「新養成講座」を落ち着かせ、より充実した養成講座を運営できればと思っています。

 退任 地区活動部部長 菅野 富喜子

養成講座を終えて〇年目、一本の電話がことの始まりでした。

地区活動の担当に身を置くことになり、「東北のどこにいても気軽に研修をうけられるようになるといいな」との思いだけでスタートしました。それが8年前。この思いは消えることなく今もあります。

振り返ると恥ずかしくなるほどに、先達の皆さまへたくさんの失礼があったことが思い出され、そのお詫びの思いと、それでも歩み続けさせていただいたことへの感謝の思いでころいっばいになります。

年を経た多くの願いや思いが形となって、いま、青森・秋田・岩手・福島・山形に県運営部があり、それぞれの県内で会員への研修

や交流会を継続実施していただいています。当初の願いに近づいてきました。他にも相談対応など活動内容が広がっていることに将来への希望と期待が膨らみます。

支部そして各県での活動が、会員の意を集結してさらに発展することを願っています。ありがとうございました。



新任 地区活動部部长 藤村 七美

盛夏の候、東北支部会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと6月22日東北支部総会におきまして副支部長ならびに地区活動部部长を拝命いたしました。

300名弱でスタートした東北支部も現在、会員数は1100名を超え、養成講座は全ての県に教室ができるなど、この10年の足跡は、前任の役員の方々、支部・各県運営部に携わっていらした皆様のご尽力なくてはなしえなかったものと拝察いたします。

地区活動部も前任の菅野さん（現本部理事）を中心に県運営部（当時は地区活動事業部）の発足から活動の定着まで、一人でも多くの会員が学びの場に参加しやすい環境づくりを推進されました。

今後を引き継ぐものとして、ますますの活動環境の充実・活性化を図ってまいりたいと思います。（副部長として渡辺・坂本両氏が留任と心強い限りです）

会員の皆様のご支援・ご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



退任 広報部部长 佐々木 志保

総会での承認から早2年が過ぎ、なんとか任期を迎えることができました。私のような若輩者で部長職が務まるものかと不安な思いでいっぱいだったことを思い出します。

活動を振り返ってみると、会報誌としての質を高めることができたのか？会員の皆様にとって必要としている情報の提供ができたのかと考えると充分ではなかったとの思いもあります。

会員数も一千名を超え、さまざまな立場で活躍されている方がいる一方で、資格を取得したものの活動から足が遠のいてしまった方も少なからずいるようです。そのような方に会報誌を読んで何か感じて次の一歩を踏み出す一助になれたのなら、多少なりとも部長としての職務を果たせたのではないかとと思っています。

海つばめの発行にあたり、毎号何を掲載しようか悩みながらも定期発行できたのも、周囲の方のサポートや副部長・広報スタッフの皆さんの協力があったからこそでした。あらためて感謝いたします。ありがとうございました。

新任 広報部部长 鎌田 千昭

この度広報部部长を仰せつかりました鎌田です。産業カウンセラーの資格を取得して初めて協会に携わったのが、広報部でした。海つばめの編集作業、工作作業を通じ、諸先輩の方々との交流は毎回の楽しみでした。

資格取得後の活躍の場はそれぞれですが、『海つばめ』が会員の皆様の、足がかりになるよう、情報提供していくつもりです。

『こんな情報がほしい』『私もお手伝いしたい』『支部運営のココはどうなの？』というような要望は大歓迎です。皆様の声に応える、充実した会報紙を発行できるよう全力を尽くしたいと思います。

プライマリー研修に参加して



盛岡会場

高橋 民

仙台会場

佐藤 明妙

今回のプライマリー研修では、言葉を手段として仕事をしていく上での自分の課題や目標が明確になりました。貴重な経験をさせていただいたことに大変感謝しています。

渡辺三枝子先生は冒頭、今回参加した目的を隣同士で話す、聴くという時間を作られました。話すことで自分が日頃感じている問題を確認できたり、質問によって予想と違う答えが引き出されたりして、とても面白い経験ができました。その後、研修のテーマである「コミュニケーション力（対話力）とキャリア支援」について繰り返し考え、話し合いをしていく過程では、自分が仕事としている相談業務についても振り返ることができました。相手の今置かれている状況を相手の視点に立って考えていたか、どのように支援したらよいかを考えて、それを意識して働きかけていたかどうかということです。そして研修の最後に、面接実習を紙上で行う演習を初めて体験してみて、聴き手と話し手、お互いの応答による変化はとても多様であることを実感しました。

今回とても印象に残ったのは、「人間はみんな違う」が出発点であるというお話と、支援の方向は常に「前向きに」ということでした。相手の自己表現を援助することも、自分に向きあい自己表現することも対話力だと学びました。また改めて、まずは信頼関係づくりが重要だと感じました。今後もこのような研修の機会を大切にしていきたいと思えます。

ありがとうございました。



5月開催のプライマリー研修では、「コミュニケーション・スキルアップ講座—アサーション・トレーニング」が行われました。アサーションとは、伝えたいときになるべく率直（正直）に、その場にあった適切な方法で伝える自己表現等ですが、私は、アサーション？なに？のレベルからの受講でした。

テキスト1ページ目の「ジョハリの窓」の文字を目にしたとき、養成講座を受講した際にカウンセリングを学んでいると実感した言葉であったことを思い出しながら、真下先生（シニア産業カウンセラー・臨床心理士）のお話に引き込まれました。

講義では①自分も相手も認められ、会話を通じたコミュニケーションで分かり合う「アサーティブ」について、②メラビアン^①の法則によると100%のうち言語情報は7%であり、残りの視覚情報と聴覚情報を活用することが円滑なコミュニケーションのコツであること等々を学び、更に実習では言語による問題解決のためのアサーション（DESC法）等をグループワークにより体験し、難しくも楽しく学ぶことができました。

また、アサーションの始まりがアメリカでの人種差別撤廃運動が社会的背景にあることを知り、カウンセリングに関する研修項目は過去の歴史からの教訓であり、学びを今に伝える裏付のあるもので、それらは社会と繋がっているのだと実感しました。

今回の研修もカウンセラーの知識としては勿論、社会生活でも必要とされるものと感じた研修でした。



【東北支部・災害地支援活動の今】

参加をしてくださった皆様は活動を通してどんな事を感じられているのでしょうか。シリーズとして毎回紹介させていただきます。

【被災地支援ボランティア活動に参加して】

宇津志 信子

思えば昨年夏の本のメールからでした。協会支部の方からで、仙台市内の社会福祉協議会と協同の被災者支援ボランティア活動参加の依頼でした。資格は取得したものの今までいくつかの研修会に参加しただけでしたので、よい機会だと思いお受けしました。

震災から2年近く、皆さんが当時の事を話せるまでに時間が経過したからでしょうか。途切れることのない皆さんの話を私は夢中で聞いていたように思います。皆さんの体験は想像以上に過酷で壮絶で、私は驚くばかりでした。それでも、笑うことを忘れず前に進もうとする皆さんの姿を見ているうちに、私はあることに気付きました。自分の中で心が柔らかくなっていく感じがしたのです。何とか、力が抜けていくような自然体が心地よいのです。それは、今まで地道に生きてきた被災者の方々との出会いが私のこだわりを溶かしてくれたのかもしれない。

振り返れば、緊張と戸惑いからのスタートでしたが、皆さんとの関わりは確実に色々なことを私に学ばせてくれました。まだまだ未熟ですが、皆さんと共に一步一步進んでいければと思っています。

最後に、先日の活動で一緒したフラワーセラピストの方のお話です。お孫さんがいらっしゃるという彼女ですが、大学に編入して2年間勉強し、今年4月から院に進まれるそうです。「これからも一緒に頑張りましょう」の言葉にとても勇気づけられ、また一つ見習うべき人と素敵な出会いができた感謝しています。

※※※※※※ 編集後記 ※※※※※※

まさか自分が東北支部広報誌の編集後記を作成する日が来るとは思っておりませんでした。私など若輩者に（あ、年齢は若くありませんが。）務まるのかと、お話をいただいた際は大変躊躇致しましたが、とある大先輩より「せっかくいただけた役割ならばチャレンジした方がよいと思うよ。」と言っていたき、恐縮ながら携らせていただくことにした次第です。と、こんな挨拶文ばかりではつまらない編集後記になってしまいますのでここでひとつご紹介。



先日、被災者支援のサロンで市の文化財課の方をお呼びしましたら、なんと！本物の弥生式土器を持ってきて見せてくださいました。ので、パチリ。ラッキー(*^^)v

東北支部広報誌 第47号

2013年7月12日発行

発行／(社)日本産業カウンセラー協会

◆東北支部◆

〒980-0014

仙台市青葉区本町二丁目6番15-503号

電話 (022)715-8114 FAX (022)715-8115

E-mail : sankakyo@crux.ocn.ne.jp

URL : <http://www.counselor-tohoku.jp/>

◆岩手事務所◆

〒020-0025 盛岡市大沢河原二丁目5-25

電話 019-681-0380 FAX 019-681-0381

E-mail : jica-iwate@lion.ocn.ne.jp

◆青森事務所◆

〒030-0862

青森市古川一丁目21-11 第二須藤ビル201号

電話 017-762-7631 FAX 017-762-7350

E-mail : jica-aomori@ever.ocn.ne.jp

